

6 学年体育科学習指導案

日 時 平成 23 年 11 月 22 日 (火)

児 童 6 年 3 組 男子 16 名 女子 17 名 計 33 名

指導者 堀 籠 謙 友

研究課題

一人ひとりの技能が高まる授業を目指して
～児童相互の関わり合いを通して～

研究課題について (設定理由)

学級の体育の実態は、運動技能に大きな個人差があり、運動することの楽しさをなかなか感じることができない児童がいる。そのことが意欲にも大きく影響しているように感じる。運動の得意・不得意に関わらず、一人ひとりが運動することの楽しさや技能の高まりを感じることができるような授業を目指したい。

そこで、技能を高めるポイントを共通理解し、児童が相互に教え合いアドバイスし合いながら運動し、自分の伸びを全員で共有できるような授業を展開していきたい。それが、運動することの楽しさを感じることや個々の技能の高まりにつながると考え、本課題を設定した。

1 単元名 みんなで挑戦！はね跳びしよう！！ (B 器械運動 ウ 跳び箱運動)

2 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、体育の授業が好きと答える児童が比較的多く、休み時間も意欲的に外遊びをしている児童が多い。しかし、運動経験が少なく体の動かし方が分からないため動きたいが動けない児童や、運動に苦手意識があり積極的に関われない児童もいる。

児童はこれまで、跳び箱運動で開脚跳び、台上前転、かかえ込み跳びを学習してきた。

体育に関するアンケートを実施したところ、以下のような結果になった。

	体育は好きですか？	跳び箱運動は好きですか？
好き	17人	14人
どちらかといえば好き	8人	3人
あまり好きではない	2人	9人
嫌い	5人	6人

体育は比較的好きであるが、跳び箱運動に対しては抵抗を感じている児童が少なくないことが分かる。これは跳び箱運動の特性である「できる、できない」がはっきりしていることにより、伸びや達成感を感じることができず自信が持てないことや、運動経験の少なさとこれまでの跳び箱運動の経験から跳び箱への恐怖心を感じていることが大きく影響し、他の領域に比べて苦手意識をもっている児童が多いのではないかと考える。そこで、一人ひとりが積極的に運動できるように、苦手意識や恐怖心といったものを克服させていきたい。

(2) 教材観

跳び箱運動は、切り返し系の技と回転系の技があり、技を完成したときに、楽しさや喜びを感じることができる運動である。しかし、跳び箱運動は「できる、できない」がはっきりしているため自分の伸びを実感できないことが多いことや、どちらの技も日常生活ではあまり行わない動きをする運動であり、特に回転系は、限定された高さ・幅の器械上で技を行うため恐怖心をもつことが多く、苦手意識につながる場合がある。そのため、一人ひとりが伸びを実感できるような授業を考えていくことが必要である。跳び箱運動は、個人

的な運動であるが、スモールステップの場を設けることやお互いの教え合いを通じて個の伸びを実感させることで、楽しさや運動への積極性が生まれ、技の達成につなげることができる。と考える。

(3) 指導観

児童は、技の習得や運動経験の個人差が大きい。できるだけ全員が伸びを感じ、運動に楽しく積極的に関わることができるように、指導にあたっては以下の点を工夫していく。

- ① 基礎感覚をつけるために類似運動を取り入れ、主運動へつなげていく。
- ② 技のポイントを分かりやすくするため、技の分解図を提示する。
- ③ 単元を通して伸びを実感し技が身に付くように、スモールステップを踏んだ場を設定する。
- ④ 児童相互が技の出来やポイントを教え合えるようなグループ構成をする。

3 単元の目標

運動への関心・意欲・態度	進んで学習に取り組み、全力で運動しようとする。
運動についての思考・判断	技のポイントを考えながら、気づいたことを話し合っている。 技ができるようにするために、練習の場や段階を工夫している。
運動の技能	自分の力に適した切り返し技や回転技が安定してできる。 適切なタイミングで回転しながら、はね動作ができる。

4 指導計画（全7時間）

	1	2	3	4（本時）	5	6	7
10	オリエンテーション	用具の準備・準備運動・類似運動					めざせ満点！ はね跳び発表会
20		学習してきた技に挑戦	はね動作をつかむ運動	はね動作の練習			
30			首はね跳びの練習	首はね跳びに挑戦			
40		(頭はね跳び)					
学習の振り返り							

5 本時の目標

(1) 目標

(運動についての思考・判断)・技のポイントについて、気づいたことを教え合っている。

・技ができるようにするために、自分の力に適した場を選んでいる。

(運動の技能)

・ポイントを理解し、適切なタイミングではね動作をすることができる。

(2) 本時の展開

	学習活動・内容	・指導上の留意点 ◇評価	場・用具
導入	1 準備運動	・全身がしっかりほぐれるように十分に柔軟を行い、怪我の防止に努める。	BGM ポイント掲示板 マット エバーマット
	2 用具の準備		
	3 基礎感覚を身につける類似運動 ・うさぎ跳び ・ゆりかごからブリッジ ・ステージ上から前転		
10分		・主運動に関わる動きを取り入れ、支持感覚、回転感覚などの基礎的感覚が養えるようにする。	

展 開	4 学習内容の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> ポイントを教え合い、みんなではね跳びに挑戦しよう。 </div>		
	5 はね動作をつかむ練習（生活班での練習） <ul style="list-style-type: none"> ・マットを重ねた場 （ゆりかごからはね動作） ・1段の跳び箱にマットをかぶせた場 （ゆりかごからはね動作） ・マットの場（補助付きのはね動作） 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに示された技のポイントを示し、本時で特に意識するポイント（はね動作のタイミング）を確認する。 ・腰の位置に注目させ、どのタイミングではね動作に入る（足を振り出す）のか話し合うようにさせる。 ・同じ人が2～3回続けて技を行い、その都度グループの人はポイントを見合せて伝えるようにする。 ・段階を踏んで場を選んで練習するようにさせる。 ・はね動作が上手にできない児童には、補助をつけて練習させる。 	移動黒板 技の分解図 マット 跳び箱1段 エバーマット
	6 ポイントの学び合いと共有 <ul style="list-style-type: none"> ・班で学びあったポイントの全体での共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・班で話し合ったポイントについて全体で共有し、腰が手の位置より前にきたときにはね動作にうつることを確認する。 ・動きのいい児童に演じさせながら、ポイントを説明する。 <p>◇技のポイントについて、気づいたことを教え合っている。（運動・学び合い）</p>	移動黒板 技の分解図
7 首はね跳びの練習（タイミングについて） （習熟度別グループでの練習） <ul style="list-style-type: none"> ・マットを重ねた場 ・1段の跳び箱にマットをかぶせた場 ・ステージ上からはね跳びをする場 ・段差なしの連結跳び箱（2～4段） ・2段差ありの連結跳び箱（4～6段） ・跳び箱（4～6段） 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の運動の状況から適切な場を選択するように支援する。 ・一人ひとりの技の高まりをポイントをもとに評価するようにさせる。 <p>◇技ができるようにするために、自分に適した場を選んでいる。（運動）</p> <p>◇ポイントを理解し、適切なタイミングではね動作をすることができる。（運動・学習カード）</p>	跳び箱6段 ロイター板 マット エバーマット 足跡マーク 着手マーク ポイント掲示板	
28分			
終 末	8 学習の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・感想の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習で伸びを感じたところや、友達の技やアドバイスでよかったところなどを発表させる。 ・児童のよい動きやアドバイスを評価し、次時の学習への意欲付けを図りたい。 	
7分	9 整理運動 10 用具の片付け		

